

2025年度 東洋大学 IR ニュースレター Vol.2 (通算第18号)

新入生の大学の志望理由・将来の進路・不安 —2025年度新入生アンケート分析結果報告—



東洋大学
学長・IR室長 矢口悦子

本号では、2025年度新入生アンケートの結果をご紹介します。

まず、志望理由では「学問分野・研究内容に興味」が最も高く、「入試方法・科目が自分にあう」「カリキュラム・教育制度が魅力的」といった項目も増加しており、教育への期待の高まりがうかがえます。加えて、第1部では学問的関心や資格取得への志向が高い一方、第2部では学費やアクセスといった現実的な条件を重視する傾向が見られました。

進路志向については「民間企業に就職する」と「決めていない」が依然として多いものの、日本人学生と留学生との間の差は縮小しており、特に留学生においては大学院進学よりも具体的なキャリアを志向する傾向が強まっています。

さらに注目されるのは、「不安」を抱える新入生の割合が全体的に減少している点です。これは、学生支援体制の充実や、入学前後のサポートが着実に成果を上げていることの表れと考えられます。ただし、不安が減少したからといって支援の必要性がなくなるわけではありません。むしろ、学生一人ひとりの声に耳を傾け、多様な背景を持つ新入生が安心して学びを始められる環境を整えることが今後ますます重要となります。

本学に入学した新入生たちが、充実した4年間で、それぞれの未来を力強く切り拓いていけるよう、大学として引き続き支援と改善に努めてまいります。

2025年度調査概要

実施対象: 2025年度4月入学の全学部全学科の新1年生
実施期間: 2025年4月14日(月)～2025年5月11日(日)
実施方法: ToyoNet-ACE (Web アンケート)

各年度の回答者数/回答率(2023～2025年度)

年度	対象者数(人)	回答者数(人)	回答率(%)
2025	7,910	5,154	65.2
2024	7,896	4,355	55.2
2023	7,614	4,137	54.3

分析の目的

「大学の志望理由」「将来の進路」「不安」について、今年度と過去2年度の新入生の回答を比較しながら、変化の傾向を把握します。また、「大学の志望理由」について、第1部と第2部(イブニングコース)のそれぞれの特徴、および「将来の進路」について、日本人学生と留学生の差異とその変化を分析します。今後の新入生への大学のサポートのありかたに示唆を提供します。

分析担当

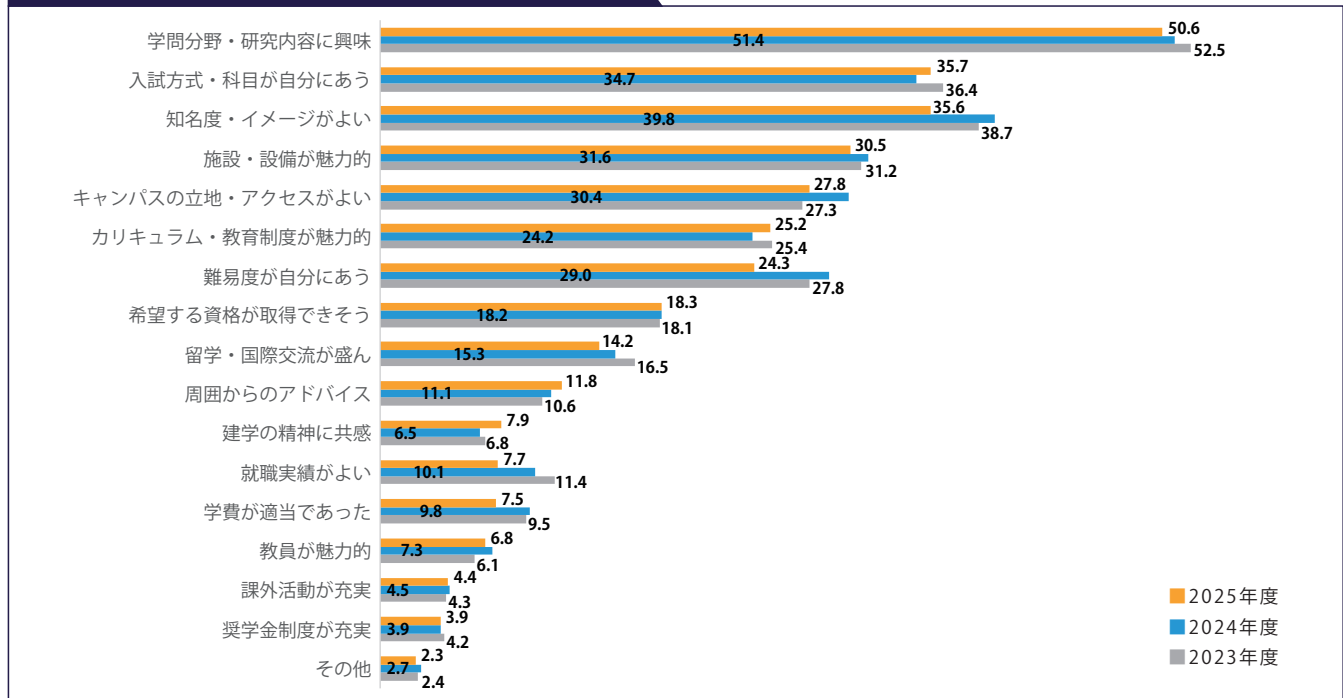
IR室 教授 劉 文君

1. 大学の志望理由

設問「東洋大学および所属学部・学科を志望したのはなぜですか？ あてはまるものをすべて選んでください」に対して、まず、今年度と過去2年度の新入生の回答を比較しながら、変化の傾向を把握する。

① 3年間の比較

図1 経年比較(2023～2025年度・2025年度高い順・%)



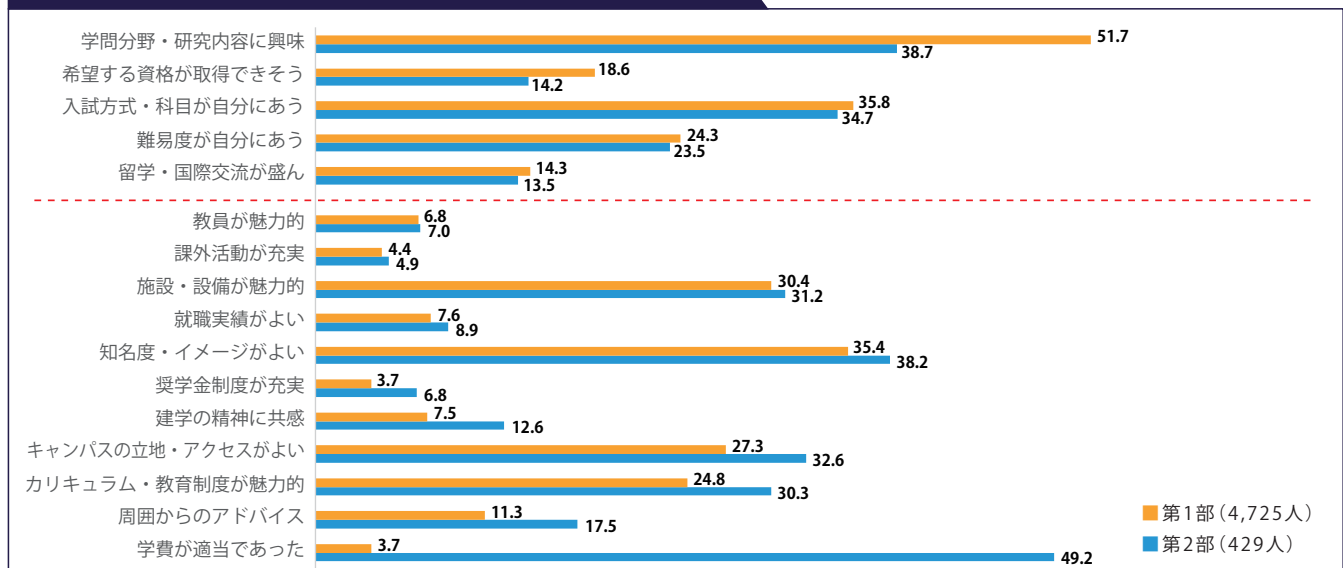
2025年度は、「学問分野・内容に興味」「入試方法・科目が自分にあう」「知名度・イメージがよい」「施設・設備が魅力的」「キャンパスの立地・アクセスがよい」が上位5項目となっている(図1)。昨年度と比べ、選択率が2割を超える項目の中で、「入試方法・科目が自分にあう」「カリキュラム・教育制度が魅力的」が増加し、その一方で「知名度・イメージがよい」「キャンパスの立地・アクセスがよい」「難易度が自分にあう」は減少の傾向にある。

② 第1部と第2部との比較

続いて、「大学の志望理由」について、第1部と第2部(イブニングコース)の異同を比較する。

図2に示すように、第1部・第2部は「学問分野・研究内容に興味」での割合がそれぞれ51.7%・38.7%、「希望する資格が取得できそう」での割合がそれぞれ18.6%・14.2%で、第1部はより高い割合を示している。これに対して、第2部は他の多数の項目でより高い割合を示している。特に「学費が適当であった」は49.2%で、第1部の3.7%に大差をつけている。また「周囲からのアドバイス」「カリキュラム・教育制度が魅力的」「キャンパスの立地・アクセスがよい」「建学の精神に共感」「奨学金制度が充実」「知名度・イメージがよい」などでより高い割合を示している。

図2 第1部と第2部との比較(2025年度、第1部がより高い順・%)

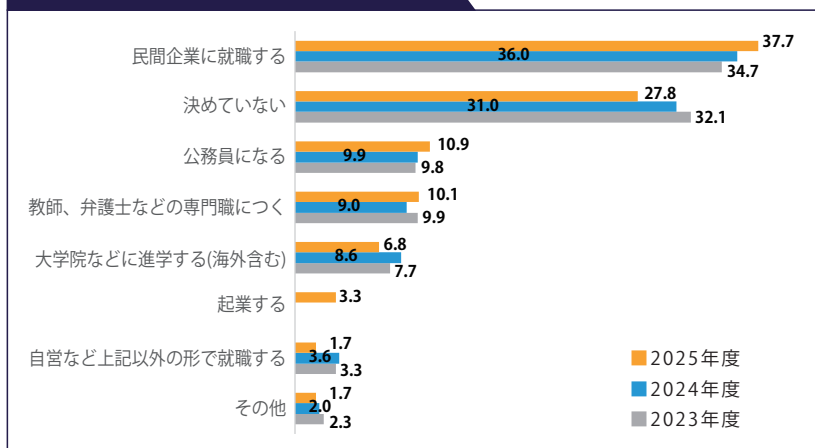


2. 将来の進路志向

まず、設問「将来どのような進路を考えていますか?」に対する今年度新入生の回答と過去2年度との比較を行う。

① 3年間の比較

図3 経年比較(2025年度高い順・%)



今年度の結果は過年度と同じく、「民間企業に就職する」(37.7%)の割合は最も高い、「決めていない」(27.8%)は2位で、両者を合わせると65.5%を占めている。「公務員になる」「教師、弁護士などの専門職につく」の選択率は各1割強である。また、「民間企業に就職する」「公務員になる」「教師、弁護士などの専門職につく」とする割合が昨年度より増えている。これに対して、「決めていない」「大学院などに進学する(海外含む)」は昨年度より割合が減っている。

② 日本人学生と留学生

続いて、「将来の進路」について、日本人学生と留学生の差異、および2025年度と2023年度と比較し、その変化を分析する。

図4 日本人と留学生との比較(2025年度、2023年度)

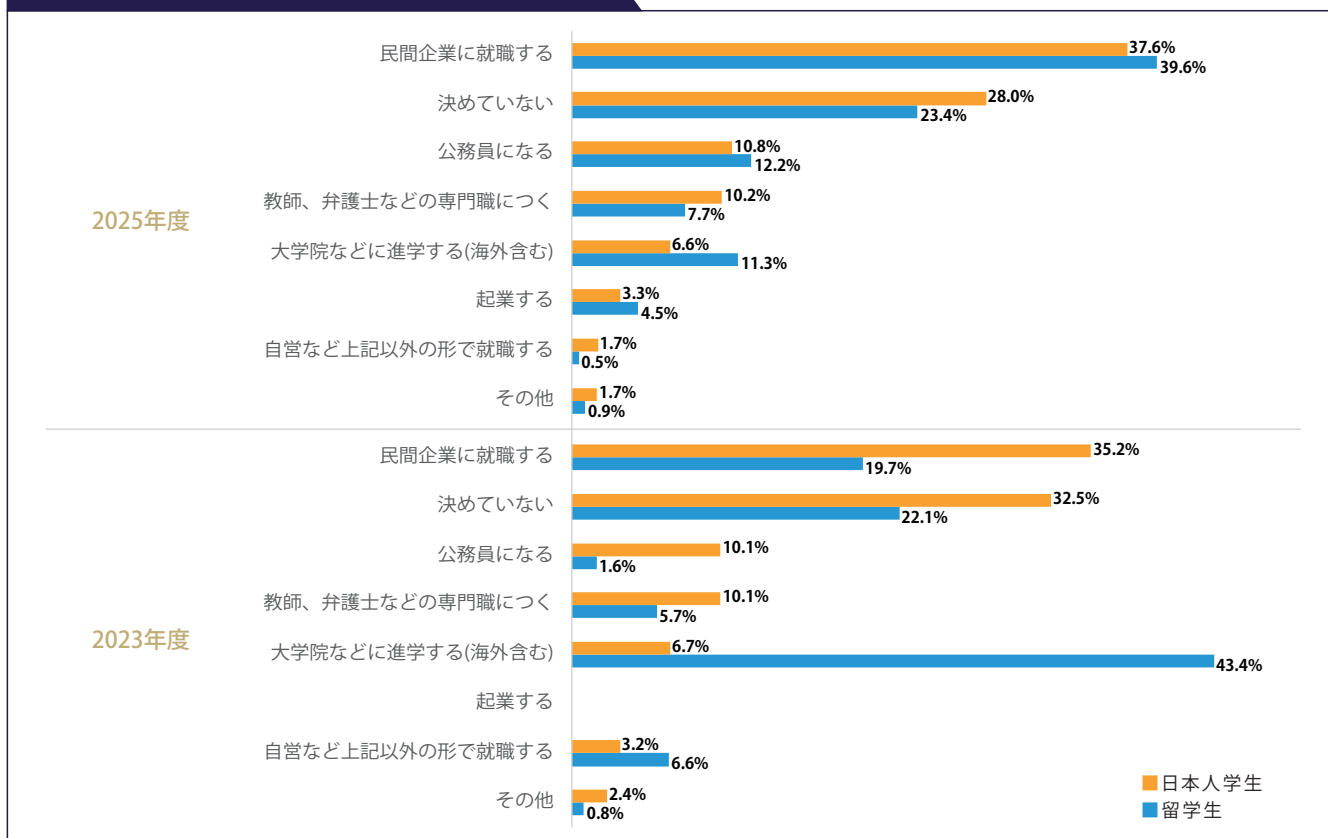


図4に示す2025年度のグラフを見ると、日本人学生と留学生はいずれも「民間企業に就職する」「決めていない」での割合が選択項目の中で圧倒的に高い。日本人学生と留学生との差異に着目すると、「決めていない」「教師、弁護士などの専門職につく」での割合が留学生より高いのに対して、留学生は「民間企業に就職する」「公務員になる」「大学院などに進学する(海外含む)」での割合が日本人学生より高い。そのうち、「大学院などに進学する(海外含む)」では、日本人学生と留学生はそれぞれ6.6%、11.3%で、差が最も大きい。

しかし、2023年度のグラフを見ると、多数の項目で、日本人学生と留学生の間には2025年度の結果に比べてより大きな差があることに気づく。日本人学生と留学生は、「民間企業に就職する」での割合がそれぞれ35.2%・19.7%、「決めていない」での割合がそれぞれ32.5%・22.1%であり、「大学院などに進学する(海外含む)」での割合は、それぞれ6.7%・43.4%と、差が最も大きい。

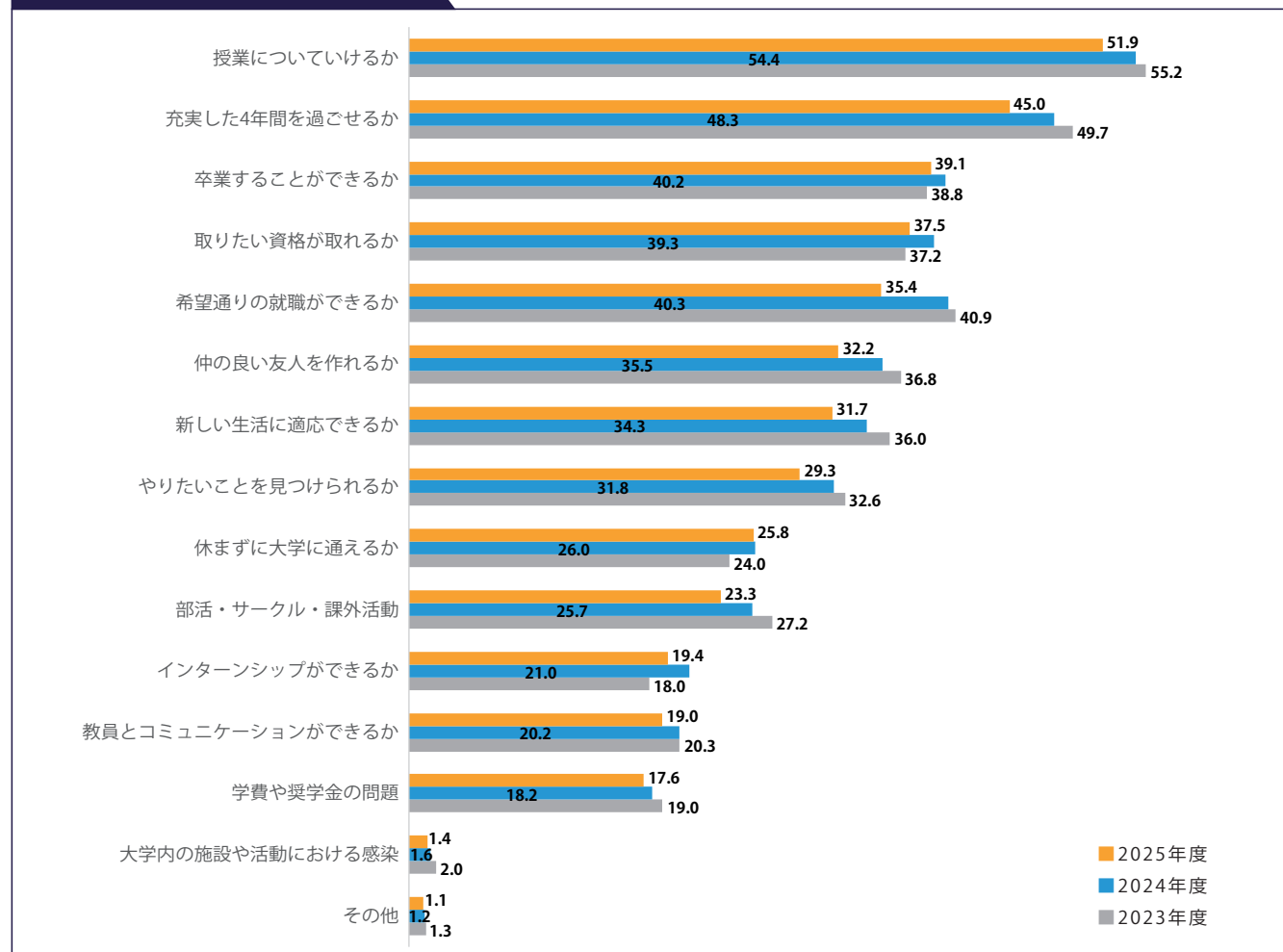
上記2年度の日本人学生と留学生の差異の変化は、主に留学生の変化によるものである。2023年度と2025年度の留学生の変化を見ると、「民間企業に就職する」とした割合が19.7%から39.6%、「公務員になる」とした割合が1.6%から12.2%、「教師、弁護士などの専門職につく」とした割合が5.7%から7.7%へと増加している。これに対して、「大学院などに進学する(海外含む)」とした割合が43.4%から11.3%へと大きく減少している。

3. 不安

設問「現在、どのような不安がありますか？ あてはまるものをすべて選んでください」に対する今年度の新入生の回答について、過去2年度のそれと比較をする。

図5に示すように、すべての項目で今年度の割合は昨年より割合が減っている。また、多数の項目での割合2年間減少し続けている。すなわち、各種の「不安」が全般的に減少傾向にある。

図5 経年変化(2025年度高い順・%)



まとめ

①**大学の志望理由**: 2025年度の回答は、「学問分野・研究内容に興味」での割合が最も高く、続いて「入試方法・科目が自分にあう」「知名度・イメージがよい」の順である。また、昨年度より、「入試方法・科目が自分にあう」「カリキュラム・教育制度が魅力的」での割合が増加、「知名度・イメージがよい」「キャンパスの立地・アクセスがよい」「難易度が自分にあう」での割合が減少傾向にある。第1部は第2部と比べ、「学問分野・研究内容に興味」「希望する資格が取得できそう」での割合が高い。第2部は「学費が適当であった」「周囲からのアドバイス」「カリキュラム・教育制度が魅力的」「キャンパスの立地・アクセスがよい」「建学の精神に共感」「奨学金制度が充実」「知名度・イメージがよい」など多数の項目での割合が高い。

②**将来の進路**: 今年度の結果は過年度と同じく、「民間企業に就職する」「決めていない」の割合が、選択項目の中圧倒的に高い。また、「民間企業に就職する」「公務員になる」「教師、弁護士などの専門職につく」での割合が昨年より増え、「決めていない」「大学院などに進学する(海外含む)」では昨年より割合が減っている。日本人学生と留学生はいずれも「民間企業に就職する」「決めていない」での割合が各選択項目の中で圧倒的に高い。2025年度では、日本人学生と留学生とを比べると、日本人学生の方が「決めていない」「教師、弁護士などの専門職につく」での割合が高い、留学生が「民間企業に就職する」「公務員になる」「大学院などに進学する(海外含む)」での割合が高い。2023年度と比べ、日本人学生と留学生との差が大きく縮小している。これが主に留学生の変化によるものである。2025年度の留学生の回答は、「民間企業に就職する」「公務員になる」「教師、弁護士などの専門職につく」の割合が増加し、「大学院などに進学する(海外含む)」での割合が大幅に減少している。

③**不安**: すべての項目で今年度の割合は昨年度より割合が減っている。また、多数の項目での割合は2年間減少し続けている。各種の「不安」は全般的に減少傾向にある。

※詳細な分析、および学部別、第1部・第2部別の単純集計結果は「新ファイル管理(学内)」で公表
URL: <https://drive.google.com/drive/folders/1TUyUROCBzjIKL-kt18lvdjyCLM6U988M>